

文化・芸術

「青い夜」

1991年、アクリル、コラーージュ(紙)
キャンバス、72・7寸×60・6寸

住吉弘人 (1922～2009年)

住吉弘人は日本興業銀行常務取締役、大協石油副社長、コスモ石油会長を歴任した財界人で、サラリーマン生活と同時に絵を描き続けた異色の画家でした。ダイエーの副社長をしていた大川美術館初代館長・大川栄二とも交流があり、大川美術館の評議員も務めました。

大阪に生まれた住吉は、東京高等学校への入学祝いとして油絵の具を贈られたことをきっかけに、絵を描きはじめます。東京大学在学中、スイス人印象派画家コンラッド・メイリに師事、学徒出陣で出征し帰国後に日本興業銀行に入社しました。

この作品にもみられるように、住吉はよくチョウを描いています。詩作もした住吉は、自身の詩の中で「蝶よ お前は美の使者」と表現するほど、チョウの姿に魅せられていました。深い青の空間を自由に漂うチョウたちには、忙しい日々の中で絵を描くことによって生きる喜びを味わっていたという住吉の心情が託されているかのようです。

(池田)

名画の扉

大川美術館企画展から

